

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 製造業の拡大により鉱工業生産は予想を上回る増加(05年5月鉱工業生産)

発表日：05年6月15日(水)

～ 製造業は自動車の停滞が続くも自動車以外の拡大により増加に転じた～

(No. UI - 049)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	生産能力	
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)		
04/05	+07	(+54)	+06	06	+26	+24	+05	15	+782	+76.1	+0.1
04/06	04	(+47)	0.1	05	20	+12	03	18	+778	+76.0	+0.1
04/07	+07	(+48)	+08	+12	04	+12	+08	04	+783	+76.5	+0.1
04/08	+0.1	(+50)	+03	04	19	+10	+03	+34	+783	+76.6	+0.1
04/09	03	(+39)	04	27	+33	+06	04	12	+780	+76.3	+0.1
04/10	+08	(+46)	+1.1	04	04	+09	+10	+35	+785	+77.0	+0.1
04/11	+03	(+38)	+0.1	+18	+05	+18	00	06	+787	+77.0	+0.1
04/12	+08	(+44)	+05	+09	+3.1	+16	+04	+12	+792	+77.3	+0.1
05/01	0.1	(+40)	+03	07	38	+38	+02	17	+791	+77.4	+0.1
05/02	+05	(+34)	+05	+24	06	+13	+03	+43	+794	+77.7	+0.1
05/03	+02	(+39)	03	0.1	+36	+08	02	3.1	+794	+77.4	+0.1
05/04	03	(+30)	0.1	+0.1	24	+13	02	2.0	+79.1	+77.2	+0.1
05/05	+04	(+27)	+05	+0.1	07	+23	+05	+00	+79.4	+77.5	+0.1

(出所)FRB

(注)数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は製造業の拡大により同+0.4%と市場予想を上回った

05年5月の鉱工業生産は、前月比+0.4%と市場予想の同+0.2%を上回った(3、4月はそれぞれ改定されたが、合計でプラスマイナスゼロ)。鉱業が変わらずとなったものの、電力等公益が減少幅を縮小し、さらに製造業が3ヵ月ぶりに増加した。生産の90%を占める製造業(NAICS)は、自動車部門の生産が横這い、ハイテク関連、素材関連等の生産が加速したことによって同+0.5%とプラスとなった(2、3、4月合計で0.3%ポイント下方改定)。公益は気温が例年よりも低かったことに伴い同0.7%とマイナスが続いた。鉱業は同+0.1%と前月と変わらずとなった。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、鉱工業生産が+1.5%(4月+2.7%)、製造業生産が+1.0%(同+2.4%)とそれぞれ低下しており、共にモメンタムは鈍化している。ただし、拡大した業種数も製造業19業種中14業種と4月の8業種から増加しており、間もなく減速に歯止めがかかる可能性が高い。

稼働率は79.4%と前月の79.2%から上昇

4月の稼働率は生産能力が前月比+0.1%にとどまった一方、生産が同+0.4%増加したため79.4%と市場予想の79.3%を上回った。製造業は77.5%と4月の77.2%から上昇した。今後、緩やかながらも生産の拡大が続くとみられることから、余剰生産能力の減少が着実に続くと見込まれ、増産投資は底堅く推移すると予想される。

増産投資が既に拡大に転じていることから、今後生産能力の拡大ペースが加速し稼働率の上昇ペースは抑制されるとみられ、利上げペースの加速要因にはなり難いと考えられる。

**製造業生産は19
業種中14業種で
拡大**

業種別では、鉱業は前月比+0.1%と4月と変わらずとなった。公益は、5月の気温が例年よりも低かったことから電力・天然ガス使用量が減少し同 0.7%となった。製造業では、アパレル・革、非鉄製品、その他製造業が減少に転じ、プラスチック・ゴムの減少ペースが加速した。一方、自動車が横這いとなり、木材、一次金属、食品・飲料・タバコ、繊維、電気機械、印刷、化学、紙が増加に転じた。加えて、加工金属、コンピューター・電子機器が加速した。一般機械、航空宇宙・その他輸送機器、石油・石炭製品もプラスを維持しており、製造業19業種中14業種が前月から拡大した。

米自動車メーカーの生産調整が続いた自動車関連は、完成車が同+0.7%と上昇に転じたものの、自動車部品が同 0.8%と低下したため、同0.0%となった。他方、好調が持続しているハイテク関連は、コンピューター生産の堅調が続くもと、半導体、通信機器の拡大ペースが加速したことにより同+2.3% (4月同+1.3%) と速まった。

**最終財、原材料と
もに増加**

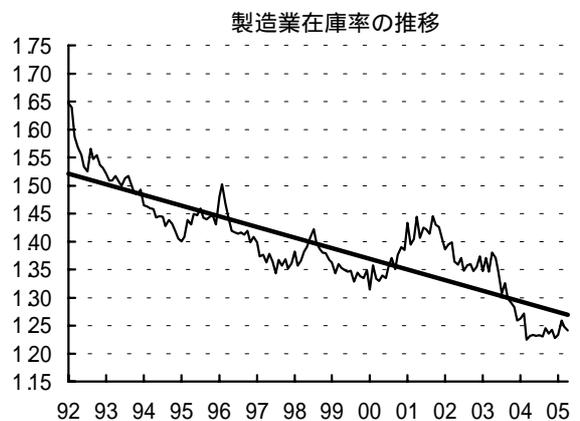
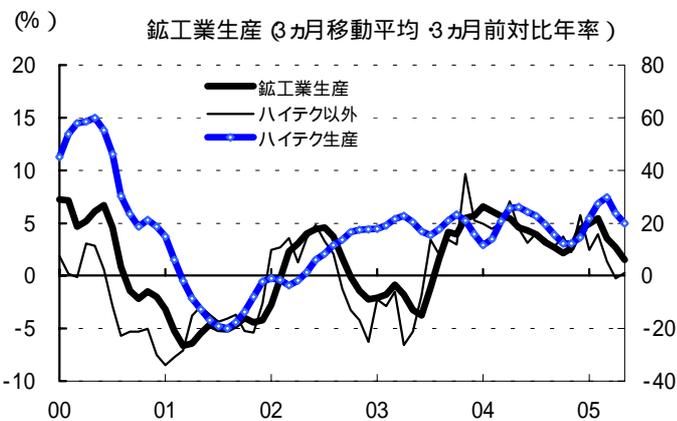
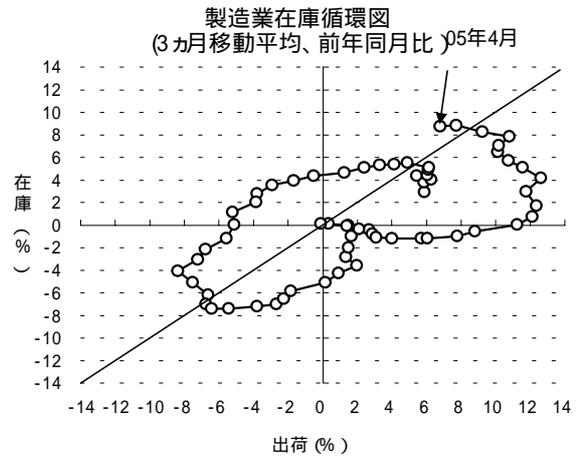
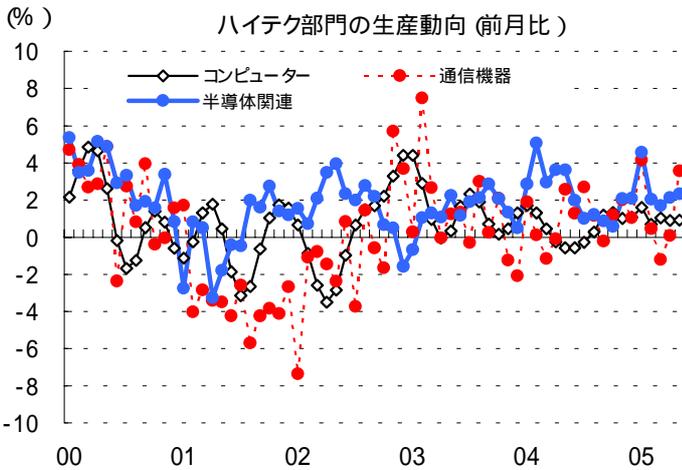
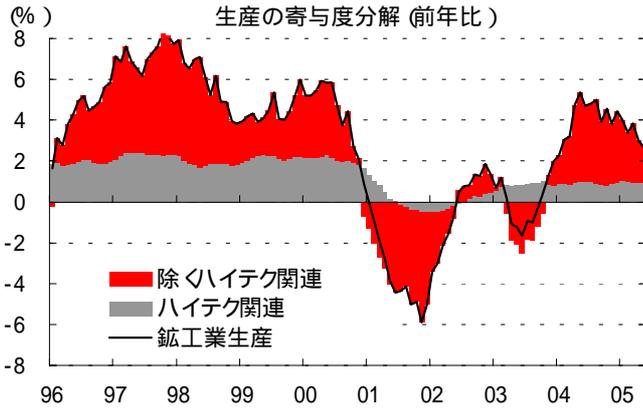
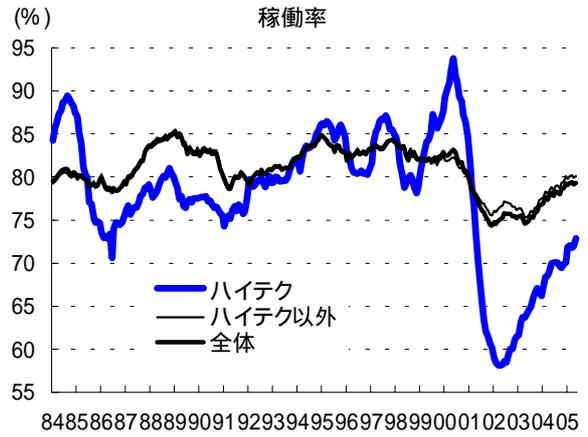
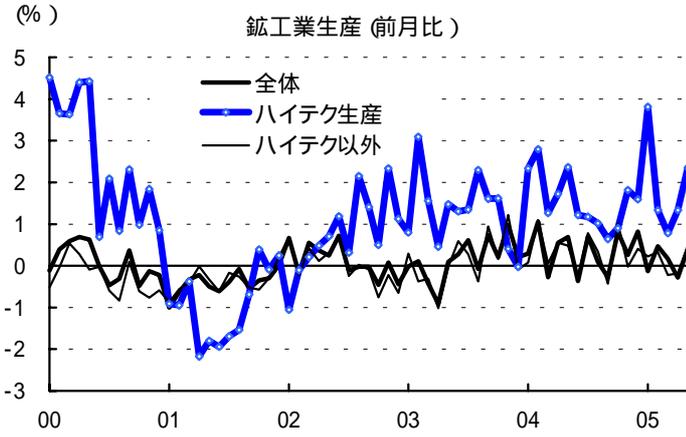
需要段階・財別の動向をみると、最終財・非産業財(全体の57.99%)では、情報機器や産業機器といった企業設備、建設財が鈍化したものの、消費財、部品財が増加に転じたため、全体は前月比+0.5% (4月同 0.2%) と増加した。一方、原材料財(全体の42.01%)では、非耐久財向け、耐久財向けが増加に転じたため、非エネルギー向け全体でも同+0.5%と増加した。また、エネルギー向けもマイナス幅が縮小したため、原材料財は同+0.3%とプラスに転じた。

**4～6月期までは自
動車の生産調整によ
って拡大ペース鈍化
が見込まれる**

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に2004年4～6月期以降も同+3%台の伸びが予想される。加えて、設備投資は減価償却率の30%から50%への引き上げ措置が2004年末で終了したものの、これまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大、2万5千ドルから10万ドルに拡大された中小企業の設備投資償却枠が2005年末で終了することに伴う需要増を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、製造業、卸売業で若干在庫が増加したことから、4～6月期、7～9月期に在庫の拡大ペース鈍化が予想される。

外需に関して、輸出はドル安の押し上げ効果が期待できるものの4～6月期以降貿易相手国の成長鈍化が見込まれることから、拡大ペースが一旦鈍化しよう。一方、輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが持続するとみられる。

以上のことから、年末にかけて緩やかに成長ペースが加速すると予想される。このような中、鉱工業生産は4～6月期も自動車での生産調整によって前期比で拡大ペースが鈍化しよう。7～9月期には、世界的なハイテク部門の在庫調整が終了するため生産の拡大ペース加速が予想される。ただし、日欧の景気拡大ペース加速時期が10～12月期に後ずれするとみられることから、生産は緩やかな拡大ペースが予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。